

裏越後三山縦走 2015/05/03-05

宇都宮溪嶺会：落合（CL）、松村（SL）、荻原（グループ・ド・ミソジ）

越後三山という呼び名はお馴染みであるが、荒沢岳を含む三座（荒沢岳・中ノ岳・越後駒ヶ岳）はいつしか山々の間では裏越後三山と呼ばれるようになった。

この三座は東側・南会津の山々からみるとその姿が合致し、まさに“裏越後三山”という呼び名が相応しい。取り分け純白に雪を纏った春が素晴らしく目を引くのでこの時期に温めていた計画であった。

裏越後三山縦走は湯檜曽川を取り囲む谷川馬蹄形にもよく似ている、ただこちらは谷川に比べ距離も長く標高差も激しく雪も更に深い、アプローチの良さや都会の雰囲気はない不毛の地である。

残雪のこの時期、三座縦走を完結するにはまず荒沢岳の通過がポイントとなる、前衛の前嶺は屏風のように立ちはだかり行く手を阻む。無雪期はトラバースとなるが、雪害の影響で鎖が撤去されている。時期が早いと雪稜に変わり以降は雪の付き方次第で雪崩の危険性が高い、この時期は記録もほとんど出回っていないようなので相当悪いか、物好きなパーティーしか登らないのだろうと悟っていた。

荒沢岳には蛇子沢左岸（ミミズ）尾根を辿り三座縦走を目指すパーティーもいるようだが、部分的にヤブが濃いらしく前嶺尾根から登るほうがより荒沢岳の大きさを感じることが出来るだろう。前者のヤブ漕ぎを好むか、後者の不確定要素満載のトラバースを楽しむかはそれぞれの好みである。

奥只見シルバーラインはこの時期、18時30分～6時までは雪崩の危険性があり、夜間通行止めとなっている。前夜はシルバーライン入口の広場でテントを張って仮眠、4：30に起きると外が騒がしいので何かと思ったら既に長蛇の列が出来ていたので慌てて移動。こんなに朝早く並んでどこに行くのだろうと思ったが、そのほとんどは奥只見丸山スキー場と釣り人で登山者はほとんどいなかった。。

◆5/3（日） 晴れのち曇り

奥只見湖船着場 6：45 前嶺下 10：05 前嶺 12：50 荒沢岳 14：45

灰ノ又山 17：20（幕営）

奥只見湖船着場駐車場で釣り人が準備する中、登山者は我々だけ。正面に見える荒沢奥壁は谷川の幽ノ沢を彷彿させる素晴らしいロケーション。道路の雪壁は未だ3m以上はあるであろう、さすが豪雪地帯。道路の壁を越えて尾根に取りつぐが、4月中旬以降暖かい日が暫く続いていたこともあ

り前山から山頂までほぼ夏道が出ていた。ただ、雪庇や沢を埋め尽くす雪渓の厚さは凄まじい。荒沢岳は地形が急峻なので尾根上の雪は比較的早い時期に落ちてしまうと思われる。

本ルートの核心である前嵩下、夏道のトラバースは案の定分厚い雪渓に征く手を阻まれ不安定、ロープは 30m か 50m にしようか悩んだが全行程を考え 30m に渋ってしまい、登攀中 50m にしなかった事を後悔した。

下部で 2 ピッチ、上部で 2 ピッチ、下部は雪渓をヘツリ草付とスラブのトラバース、上部では荻原さんが雪渓上でキックステップした際にアイゼンの樹脂が真っ二つに割れるというアクシデントが起きて敗退の危機にも晒されたがテーピングで補強し何とか事なきを得た。こんな出来事もある意味アルパイン気分を盛り上げてくれたひとつの要因であった？

上部の鎖場は遠目からオブサベした感じとても登れそうに見えなかったが、近づいてみると鎖こそ撤去されているが支点が豊富にあるので比較的安心、むしろそこに至るまでの雪渓が悪いのでトラバースは不確定要素が多く、技術的にはさして難しくないが精神的グレードが高い。

前嵩はシルバーライン開通直後に来れば雪稜になっていると思われるので、次は是非早い時期に来て忠実に登ってみたいものだ。雪稜からの三座縦走、、壮絶そうだな。。



前嵩下～前嵩のトラバース（写真・上下）雪渓の状態が不安定で通過に苦労した。



雪溪が無い尾根上は暑く陽炎がみえる始末、初日は夏山縦走のような気分で終始バテ気味になりながら午後遅くに荒沢岳山頂を踏む。予定の幕営地まではわずかに届かなかったが、日没近くまで粘り灰ノ又山山頂直下で幕営。勝利の美酒は格別、初日はカモシカに遭遇しただけで誰とも会わず越後の夜は私達だけの為に用意されているようだった。



遠くに目をやれば分水嶺の利根川源流域の山々が穏やかに連なり、目指す兎岳は大きく中ノ岳は圧倒的な存在感。原始の度合いが高くGWの喧騒とは無縁の山域だ。

眼下には北ノ又川、三国川、水無川が深い溪谷を刻み、この時期にしか見れないであろう大滝もあちこちに出現しており豪雪地帯魚沼の深さを実感した。

◆5/4（月） 曇り時々晴れ（夜は風雨のちミズレ）

灰ノ又山 5：30 兎岳 8：00 中ノ岳 11：25 中ノ岳避難小屋泊【午後は停滞】

予報では午後から崩れると思っていたので、早めに出発し中ノ岳避難小屋で停滞とする。携帯は電波が入らないのでラジオで情報を入手したが天気が崩れるのは夜遅くからだった。

縦走路は森林限界上の行動が続くので天候リスクが高いが、各所に高い木が生えているので幕営ポイントは思いの外たくさんあった。

ちょうど中ノ岳避難小屋に着いたら天気雨が降って来て視界が悪くなったので、結果オーライ。貸し切りホテルでの昼寝は気持ちよく英気を養った。

今夜も避難小屋は貸し切りかと油断していたら、夕方近くになり東京北稜会の方々が登って来た。ミズ尾根から荒沢岳に登り同ルートに登ってきたとの事だが、ヤブ漕ぎが大変だったようだ。

夜遅くは避難小屋が軋む風雨で何度も目が覚めたが、朝起きると小屋の入口はガチガチに凍り付いていてお湯を注いで扉を開けた。

小屋からは雲海の上からヒョッコリ顔を出す越後駒ヶ岳～八海山～巻機山が幻想的だ。

翌日以降の停滞も考えトランプや小説を持って来たが、天気は急速に回復に向かう。嬉しいようなもう少し山で過ごしたいような複雑な気分。。



兎岳から望む“公式な越後三山” 八海山～中ノ岳～越後駒ヶ岳（写真・左）



中ノ岳は雪庇が大きい（写真・右）

◆5/5（火） 曇りのち快晴（朝まで強風）

中ノ岳避難小屋 7：30 越後駒ヶ岳 11：00 駒の小屋 11：50 発 道行山～北ノ又川方面に
下降 14：20 奥只見湖船着場 15：50



荒沢岳と対峙、歩いて来た縦走路に思いを寄せる（写真・左）、越後駒ヶ岳山頂（写真・右）

越後駒ヶ岳山頂ではカメラを向けてもらった年配者に学生と間違われて嬉しい気分になった3人であった。予定では予備日を使いのおんびり下山する予定だったが、思いの他下山路はサクサクでギアを上げて一気に下山。下りの尾根はスキーで滑りたいくらい広い斜面が広がっていてエア・テレマーク。



残雪に新緑が眩しい奥只見、源頭部から我々もこの急流のように一気に下山。
北ノ又川から仰ぐ荒沢岳は梓川からみる穂高連峰のそれと比べても何も見劣りしなかった。

今回のルートは一般縦走路とは一味違い、これから登る山～歩いて来た山々が次々に迫り変化し展望の良さが目を奪う。フィナーレが越後駒という所もいい。

残雪期の前嵯尾根（トラバース）は決して一般的とは呼べないが、ロープは 50m あれば安心。

雪溪の残り方は全く読めないなので現地判断するしかない、ここを突破しての三座縦走が内容を高めた山行だった。

（記録：落合）